

MIW 所蔵 DVD の紹介

MIW 情報ライブラリには、国内外のノンフィクション映画やドキュメンタリー、お子さんたちも楽しめるアニメーション作品など、数々の DVD を所蔵しています。MIW ならではのラインナップとなっておりますので、ぜひご覧ください。



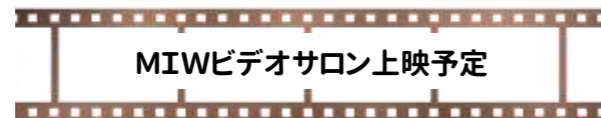
岬のマヨイガ

川面真也監督 / 2021年 / 104分 / 日本
柏葉幸子による児童小説をアニメ化。舞台となる岩手県の伝承もストーリーに取り入れながら、ある事情で居場所を失った2人の少女がふしぎなおばあちゃんとの出会い、「いま」を強く生きるために再起する姿を描く作品です。

©柏葉幸子・講談社/2021「岬のマヨイガ」製作委員会

At Any Place 4 映像作家 出光真子作品：ヨネヤマ ママコ作「主婦のタンゴ」より

出光真子監督 / ヨネヤマ ママコ出演 / 1978年 / 約12分 / 日本
1975年の国際婦人年のために、ヨネヤマ ママコが自作自演したパントマイム「主婦のタンゴ」をもとに、出光真子がイメージを膨らませて映像化した作品。主婦の日常をパントマイムで表現しながら、次第に焦燥感にかられて爆発するまでを痛快に活写。



MIWでは 14:30～、18:30～に、所蔵する映像作品を上映するビデオサロンを開催します。上映後には、感想を語りあう交流会を開きます。事前申込みは不要です。ぜひ、ご参加ください。



2月16日(金)上映作品(予定)「漂流ポスト」

監督/清水 健斗 2018年/60分/日本

東日本大震災で親友の恭子を亡くした園美は、心のどこかで死を受け入れられず日々を過ごしていた。ある日、学生時代に恭子と埋めたタイムカプセルが見つかり、「将来のお互い」に宛てた手紙が入っていた。震災で亡くなった大切な人へ届けたい言葉・伝えることができなかった想いを綴った手紙が届く「漂流ポスト」の存在を知った園美は…。

©Kento Shimizu

千代田区男女共同参画センター MIW (ミュウ)

〒102-8688 千代田区九段南 1-2-1 千代田区役所 10 階
電話:03-5211-8845 FAX:03-5211-8846
Eメール:miw@city.chiyoda.tokyo.jp https://miw.city.chiyoda.lg.jp/
Instagram:chiyoda.miw Facebook:@chiyoda.miw
開館時間/月～金 9:00～21:00 土 9:00～17:00 日曜・祝日休館

ホームページ メルマガ登録



ライブラリニュース みゆう

2023年12月 100号

千代田区
男女共同参画センター

MIW (ミュウ)

MIWマスコットキャラクター
みゆうじろうとらいぶらり・アンさん



ゆっくり読書をしませんか

年末年始、ゆっくり時間が過ごせそうな方は、この機会に読書はいかがですか？MIW スタッフが、おすすめの本をご紹介します。MIW 情報ライブラリの本や DVD は、千代田区立図書館の貸出券で貸出できます。貸出券は千代田区内在住・在勤・在学者を問わず、日本国内に住所がある方はどなたでも作ることができますので、貸出券をお持ちでない方は、この機会にぜひご利用ください！



縁を結うひと

深沢潮著
新潮社(新潮文庫刊)
2016.2

在日コリアン同士の縁談だと右に出るものはいない有名人「金江のおばさん」のエピソードをはじめ、人が一緒に生きることや、結婚とは何かを、じっくりと考えさせる短編小説集。親子のすれ違い、時代の移り変わり、老いていくこと…いくつものストーリーが交差するのも魅力のひとつ。

老人ホームで死ぬほどモテたい

上坂あゆ美著/書肆侃侃房/2022.2
“ばあちゃんの骨のつまみ方燃やし方 Youtuberに教えてもらう” — 嫌いだった地元・沼津を飛び出し、東京で暮らす若き歌人のデビュー作。家族間や地元での葛藤や自らの生きづらさを、ユーモアのある言葉選びで表現した作品群、思わず唸る短歌集です。



自分も傷つきたくないけど、他人も傷つけないあなたへ

アルテイシア著
KADOKAWA
2022.12

「女のくせに料理もできないなんて」「稼げないなんて男失格だな」…そんな言葉に傷ついたり、もしかしたら誰かを傷つけてしまっているかもしれない。「ジェンダーを学ぶと生きやすくなるよ」という想いを込めて、著者がジェンダーの感覚をアップデートしてくれる本です。

シェイクスピア劇を楽しんだ女性たち：近世の観劇と読書

北村紗衣著/白水社/2018.3
著者による蔵書票や古文書などの調査から明らかにされた当時のシェイクスピアファンの女性たちの姿は、現代で“推し”に熱中する私たちのよう。シェイクスピア普及の力となった彼女たちの姿を本書で覗いてみませんか。



ワーク・ライフ・バランス



**ビジネスケアラー
:働きながら親の介
護をする人たち**
酒井穰著
ディスカヴァー・トゥエ
ンティワン
2023.7

【MIWスタッフレコメンド】

「ビジネスケアラー」とは、働きながら介護をする人たちのこと。少子高齢化が進み、人材不足の状況の中、仕事と介護を両立しなければならない人たちが、日本企業の中で急速に増加すると予測されます。本書では、介護離職をすることなく、仕事と介護を両立するための基礎的な知識とその方法、また介護を肯定的に捉えるための指針を紹介しします。

先輩ワーママと考える 仕事と育児のちょうどいいを見つける本

あい・あこ・さゆ・のま・まみ著 ゆままイラスト
ハガツサ / 2023.2

「完璧に育児をこなして、仕事は二の次」といった思い込みに苦しめられていませんか。そんな時は、先輩ワーママによる、自分自身にとってちょうどいいライフデザインを考えるこのアドバイス集がおすすめ。

子育ても、キャリア育ても :ウィズ/ポストコロナ時代の家族のかたち

大谷順子編著 / 九州大学出版会 / 2023.5
超少子高齢化とコロナ禍でライフスタイルも大きく変わり、キャリア形成や家族のかたちも多様化しています。世界の事例も紹介しつつ、人口学や教育学などの多面的なアプローチから、誰もが平等に生きやすい社会をつくる方法を考える一冊です。

家族



離れていても家族
品田知美[ほか]著
亜紀書房
2023.8

【MIWスタッフレコメンド】

低い出生率と高齢化、父親は仕事で不在がちで、母親はワンオペ育児と家事に追われ、それでも、多くの人が大切なものだと考えている「家族」。4人の社会学者が、日本とイギリスの家族を調査、比較しながら、現代の日本の家族とはどういうものなのか、実像を探り、今まで抱えてきた幻想の家族像を解き放ち、これからの家族について語ります。

家族と厄災

信田さよ子著 / 生きのびるブックス / 2023.10
新型コロナウイルスによるパンデミックという厄災が家族に何をもちたらし、どう変化したのか。なかでも家族の中で最も弱い立場におかれた人々がどのように再生していったのかを家族問題に長年携わってきた著者が綴ったエッセイ。

父ではありませんが:第三者として考える

武田砂鉄著 / 集英社 / 2023.1
“父親”という当事者ではない著者が「第三者」の視線で「親・子・家族とは何か」について語る。常に何かの当事者であり、何かの当事者ではない私たちが「ではない」立場で見えてくるものがあり、第三者として考えることの大切さに気づく。

労働



**「ものづくり」のジェン
ダー格差:フェミニイ
ズされた手仕事の言
説をめぐって**
山崎明子著
人文書院
2023.5

【MIWスタッフレコメンド】

手芸や内職は、どうして「女性らしい仕事」とみなされてきたのでしょうか？ 近代の女子教育に「手芸」が組み込まれる過程や、戦争動員としての「千人針」、女性の家事労働、現在の消費社会化などをおさえた「ものづくり」の歴史をたどり、今も残るジェンダー観がどのように形成されていったのかを明らかにする一冊です。

職場問題グレーゾーンのトリセツ:「知らな かった」で損をしない、働く人の必携書

村井真子著 / アルク / 2023.5
育休申請したら、自宅から通えない距離の職場に異動させられた…これってもしかして法律違反？ 何がセーフで何がアウトなのか分かりにくい、労働環境のグレーゾーンに悩むビジネスパーソンにあてた解説書。

女性労働研究 第67号:ケア労働者の 働き方と賃金 「新しい資本主義」の虚実

女性労働問題研究会編 / 女性労働問題研究会(発売) / 2023.3
「新しい資本主義」の柱「女性の経済的自立」と「ケアワーカーの所得向上」。でも、なかなか待遇改善や賃金アップに繋がらないのはなぜ？ そんな実態と政策のギャップを探る論文集です。

性暴力



**勇気ある女性たち
:性暴力サバイバーの
回復する力**
デニ・ムクウェゲ著
大月書店
2023.7

【MIWスタッフレコメンド】

1990年代以降、政治的混乱が続くコンゴ。そこで武装勢力による性暴力被害にあった女性たちを治療する産婦人科医・ムクウェゲ医師が自身の半生とともに、コンゴの性暴力の状況を伝える。また様々な歴史の具体例やデータを取り上げ、いつの時代にも、どこの国にもある性暴力の普遍性を指摘する。

男性の性暴力被害

宮崎浩一、西岡真由美著 / 集英社 / 2023.10
性暴力の被害者というと女性だと思われることが多いかもしれませんが、実際には男女とも被害にあうこともあります。本書は今まで見えてこなかった男性の性暴力被害の実態や、その心身へ及ぼす影響、なぜ「なかったこと」にされてきたのか、その構造を明らかにします。

声をあげて

五ノ井里奈著 / 小学館 / 2023.5
著者は東日本大震災で被災した際、避難所で自衛隊の支援を受け、自分も人々のために活動することを夢見て陸上自衛隊に入隊。しかし、日常的な性被害を受け、退職後、世間に性被害を实名で告発した。「声をあげなくてもいい世の中」を望む、強い願いと勇気がつまった一冊。